

2021年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長 小西 光

### はじめに

1979年、「今こそ我々は、郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通じて友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献しなければならない」という先輩諸兄姉の高い志のもと、全国で659番目の青年会議所として乙訓青年会議所は誕生しました。これまでの41年という歴史のなか、先輩諸兄姉が残された乙訓(まち)の発展への功績は、感謝とともに組織の誇りとして、今の我々に受け継がれています。

近年の乙訓地域においては、心地よい自然に交通の利便性と、歴史遺産から育まれた高い文化性が調和したまちとして、人口も緩やかに増加し、発展を遂げてきました。しかし、将来的には、人口減少・超高齢社会の到来・加速する経済格差・多発する自然災害への不安など、この国が抱える課題に直面することが予想されております。また、2020年に世界規模で社会的・経済的、そして政治的危機を引き起こした新型コロナウイルス感染症を起因とするパンデミックは、これまでの習慣や社会常識を根本から見直すことを私たちに迫っています。

今までの価値観が通用しない時代だからこそ、この困難な時期を乗り越えれば、人々は新しい考え方や生き方を実現できるのではないのでしょうか。そして、我々は、先輩諸兄姉より、この愛する乙訓(まち)の過去から未来に続く壮大な「まちづくり」という物語を託された主人公であります。たとえ今は苦しくとも自ら変化の起点となり、青年会議所の理想を胸に、困難な時代の変化に負けない運動を展開し、乙訓(まち)からの負託と信頼を得る存在でなければなりません。変わりゆく時代のなかでも、希望をもって未来を描ける乙訓(まち)であり続けるために。

### Be the change ～その行動こそが未来を変える～

あらゆることが従来と同様に進められない今だからこそ「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために、発展・成長の機会を提供する」という青年会議所の使命を見失わずに、時代の変化に合わせた運動を展開することが我々には求められています。近年、ITの発展など、様々な分野における技術進歩は、人々の生活を便利にした反面、ライフスタイルや人的ネットワークの価値観に新たな課題をもたらしました。それは、失われた30年と呼ばれる平成の経済低迷による未来への不安とともに、一つの社会現象として「今さえよければいい・自分さえよければいい」という打算的で利己的な考えを増長させていると考えます。しかし、地域を牽引するリーダーである我々が、打算的で利己的な行動をしては、社会はより良くなるはずがありません。今一度、我々は「世のため人のため」と改めて自らの道徳心・品位を見直し、乙訓(まち)の未来を背負う気概をもって、

自らの人格を磨き上げなければなりません。

本年度はスローガンに「Be the change」を掲げ、「～その行動こそが未来を変える～」をテーマに活動してまいります。「Be the change」には、不透明な社会情勢への不安と組織の危機を一人ひとりが意識を変えるチャンスとポジティブに捉え、圧倒的な主体者意識から生まれる行動力で乙訓(まち)の未来のために邁進しようとする想いが込められています。

心が変われば行動が変わり、行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わり、人格が変われば運命が変わる。混沌とは全ての人への平等なチャンスを内包しています。明るい豊かな社会の実現のため、曇りなき眼で見定めたチャンスを掴み、圧倒的な主体者意識をもって行動できる品位ある組織へと変化しよう。

### **圧倒的な主体者意識から生まれる行動力で、組織の未来をつくろう**

2021年度を、過去に例のない期首会員数で迎える我々は、組織存続の危機に直面しています。この状況に一人ひとりが当事者意識をもって向き合わなくてはなりません。会員数の低下は事業規模の縮小による地域への影響力低下や学びの機会の減少につながります。本来、「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために、発展・成長の機会を提供する」ことを使命とする青年会議所にとって、会員拡大とはその使命に対する最良の手法であります。また、拡大活動は組織と社会との最大の接点でもあり、組織をより良く変えるきっかけにもなります。どのような組織も社会の変化についていけなければ、消滅する定めにあります。この組織存続の危機を、会員拡大への意識を大きく変化させるチャンスと捉えましょう。これからも、我々は、乙訓(まち)により良い変化を与える人財を育み続け、地域に必要とされる存在でなくてはなりません。

まずは、我々自身が組織の価値や楽しさを正しく伝えられる存在になります。そして、年間を通して、入会候補者に組織の価値や楽しさを感じてもらおうとともに、組織を挙げて拡大目標を達成します。また、今までの常識にとらわれない自由な発想を活かした会員拡大に挑戦します。さらに、新しい仲間が組織の理念と本質を理解し、主体的に活動できる環境を構築します。

時代とともに人的ネットワークに関する価値観は変化していますが、企業や人々の社会貢献意識は上がっており、必ず未来の仲間と我々はつながっています。しかし、どのような新しい手法も圧倒的な主体者意識から生まれる行動なしには成果は得られません。謙虚な心で仲間を頼り、誠実な心で出会い、対話によって導き出したアプローチを実行し、仲間への感謝を欠かさない。このような、互いを尊重し、助け合うことで成り立つ「仲間づくりの輪」を圧倒的な主体者意識から生まれる行動力をもって、大きく広げた先に、まちと組織のより良い未来があると信じよう。

### **自己成長を求め、乙訓(まち)の未来を明るく照らす燈火となろう**

「理想の組織とは？」と考えたとき、リーダーが強い牽引力のある行動や言葉でビジョンを示し、組織を導いていくだけで良いのでしょうか。素晴らしい組織とは帰属する一人ひとりが責任をもつ

て役割を全うする「主体的な人」でなくてはなりません。そして、仲間の成功を喜び、皆で讃え合える「品位ある組織風土」が必要です。また、そこに互いを尊重し合う倫理観のもと、「組織目的」・「協働意志」・「コミュニケーション」の三要素が揃って成り立つ組織こそ「理想の組織」であると考えます。そのうえで、ヒエラルキー型組織の強みと、自律的に行動できるホラクラシー志向の柔軟さを併せもつ青年会議所の本来の組織体系を意識し、一人ひとりが主体性をもって活動に取り組む必要があります。

まずは、自らを「主体的な人」へと変える習慣を学びます。そして、一人ひとりの主体者意識が相乗効果を起こしながら個々が自律的に行動する組織へと進化します。また、卒業を迎える仲間に敬意と感謝を伝えるとともに、組織の結束力を高めます。さらに、メンバーへの一年間の労をねぎらい、次年度の活動への英気を養います。

組織に帰属する一人ひとりが責任をもって役割を全うする「主体的な人」となり、仲間の成功を喜び、皆で讃え合える「品位ある組織風土」が浸透した組織には、自律的で能動的なフォローシップが生まれます。このフォローシップの変化が持続的に次世代のリーダーを育み続けると確信しています。我々にとっての正しい努力とは、より良い変化を求め続けることです。「昨日と同じ自分に満足せず変化を求める」そんな意識の習慣化が自分を成長させるのです。時代は変わろうとも、地域に求められるリーダーとは、主体的な言動や行動から品位を感じる「人格者」であると考えます。我々の飽くなき自己成長を求める姿が、乙訓(まち)の未来を明るく照らす燈火になると信じよう。

### **好奇心をもって常識にとらわれないワクワクするまちづくりを追求しよう**

我々は、2019年に「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」という未来Visionが策定しました。地域に必要とされる組織として【自立・共生・創造】を胸に未来Visionの達成に向け、一歩ずつ5ヶ年活動計画を遂行していかなければなりません。乙訓地域は、多くの文化遺産や歴史名所など、様々な恵まれた地域資源を有していますが、観光消費という視点で見ると、その魅力を活かしきれていないという地域課題があります。今後、我々は、さらに地域課題の本質を探究し、運動が地域に与えた成果の検証をするだけでなく、「やりがい」として実感できる「成果の可視化」にも注力しなければならないと考えます。地域課題を自分事と捉え、主体的に行動するなかで、地域と組織に好循環を起こし、明るい豊かな乙訓(まち)の実現へと歩みを進める必要があります。

まずは、行政・地域諸団体・先輩諸兄姉に我々の一年間の方向性を理解して頂きます。そして、ワクワクする遊び心と発想力で今までの常識にとらわれない新たな試みに挑戦します。また、出向先で多くの修練を積んでくれた出向者に成果を実感して頂きます。さらに、地域に行政・市民・地域諸団体を巻き込んだ新たな消費を生む仕組みを創出します。そして、それぞれの地域において、市民の政治参画意識を高めます。

本年度は、常識にとらわれないワクワクする発想で地域を巻き込んだ社会運動に挑戦します。今後、地域に求められるものは何なのか、今の当たり前は当たり前ではなくなり、日々常識が変

化していく時代だからこそ、実際に現場へと出向き、多角的な視点と多様な視座で事実を見極め、最新の情報を掴み、リアルな課題を抽出しようと向き合うことが重要となります。すなわち行動こそが、初めの一步なのです。心躍る乙訓(まち)の未来のために、好奇心をもって常識にとらわれないワクワクするまちづくりを追求しよう。

### **効率的な会議運営と戦略的な広報で組織価値を高めよう**

我々は、公益法人として健全な組織運営を行うなかで、SNSやメディアなど様々な手法を活用して青年会議所運動を地域に発信してきました。しかし、市民にとって我々の活動、運動の認知度は未だ十分とはいえない現状があります。これまでの組織運営や守るべきルールを徹底したうえで、戦略的に導き出した広報活動により、青年会議所のブランド力を高める必要があります。

まずは、役職者に対し、組織規範やそれぞれの役割への意識を高めます。そして、公益法人として公益性の高い財政支出と各種権利に関するコンプライアンスの確認を徹底します。また、議案に対し建設的で活発な議論を重ねられる実り多い会議運営を推進します。さらに、広報誌やHP・SNSを通して、地域の方々に我々の活動や運動への共感と信頼につながる賛同者を増やすとともに、地域の方々からの共感や信頼が我々に誇りを醸成し、運動の活性化につながります。そして、青年会議所の強みである出向への意欲を高める機会を創出します。また、我々の運動を継続的に発展させる機会を創出します。

昨年、我々は、有事の際にスピード感のある運動が展開しづらいという歯がゆい経験をしました。この経験から、社会環境が激しく変化するなかでも、変化に強い「柔軟な組織運営」についても考えなくてはなりません。地域に根差した運動をさらなる高みへ導くとともに、有事の際にも「今、本当に必要とされていることは何か」を導き出し、的確に問題の本質を捉えられる、変化に強い組織となろう。

### **常に組織を未来へと導くべき存在として一枚岩であらう**

今の我々は、乙訓(まち)の未来のこと、組織の未来のことについて真剣に語り合っているでしょうか。そのなかで、「ええもんはええ」「あかんもんはあかん」という乙訓青年会議所の伝統に反する妥協や不要な同調があっては組織の創造性と生産性の低下につながります。正副役員は、「和而不同」の精神のもと、妥協なく本質を議論し、その自律的な姿勢と行動が常にメンバーの模範とならなければなりません。また、より良い事業を構築する「論理的思考」の指導者である必要があります。

まずは、メンバーに「論理的思考」の浸透を図る機会を創出します。そして、創立を祝うとともに、組織の絆を深めます。また、後半の活動に対する意識を高めるとともに、前半の活動を労い後半の活動への英気を養います。

過去は検証するものであって踏襲するものではありません。誰もが活躍できる新しい組織のあり方を議論し、メンバーファーストの組織運営を目指しましょう。自らを律し、スピード感をもった決断と運動の発信を心がけ、常に組織を未来へと導くべき存在として「一枚岩」であろう。

## 同心協力

本年度は、京都ブロック協議会会長を輩出致します。これは輩出LOMとして、京都ブロック11LOMの皆様方に大きな学びの機会を創出する義務と、多大な責任をもつことにつながります。我々は、この貴重な学びの機会を頂いたことに、感謝の念を抱きつつ、全員全力で支援する気概をもって活動する必要があります。まずは、京都ブロック協議会に対し、様々な立場で多数の出向者を輩出させて頂きます。そして、我々は、2022年度に京都ブロック大会の主幹LOMという重責を担っており、本年度は次年度を見据えた万全な準備を行う必要があります。また、出向者だけが、がんばるのではなく、その出向者を支えるためにも同心協力の精神のもと、一丸となって支援活動に取り組まなければなりません。その責任ある行動が、2021年度京都ブロック協議会スローガン「〇〇〇〇」につながると考えます。さらに、京都ブロック11LOMの皆様にも、その気概を伝え、同志として互いに切磋琢磨することで学びや気づきが生まれ、京都ブロック協議会がスケールメリットを活用した魅力ある運動の発信を果たせると確信しています。

## むすびに

それぞれの命という時間を燃やす青年会議所活動において、「やって当たり前」はありません。常に仲間・家族や従業員の皆様に感謝の心もちましょう。そのうえで、圧倒的な主体者意識から生まれる行動で仲間を集め、自らを「主体的な人」へと変える習慣をもち、「品位ある組織風土」と「しなやかな組織」から生まれる、自律的で能動的なフォロワーシップが組織に浸透すれば、我々は、乙訓(まち)の未来を圧倒的な行動力で切り開く、混沌という時代の先駆者になれるはずです。変わらざるを得ない時代だからこそ、変化を恐れぬ勇気をもって一歩前へと踏み出さなくてはなりません。我々が進むその先には乙訓(まち)の明るい未来が待っています。今は「JCもある時代」と言われ、様々な社会問題への奉仕活動を行っておられる多くの団体があるのは事実です。しかし、今も「JCしかない時代」であると誇りをもって、乙訓(まち)に本当に必要とされる組織を目指し、不易流行の考えによるイノベーションを起こそう。これまでのJCを取り戻すのではなく、これからのJCを創ろう。「世のため人のため」今の我々にしかできないことがある、だから今やるんだ。

乙訓(まち)の明るい未来を次代に残すのは我々の使命である  
この誇りある乙訓青年会議所の一人として  
我々が地域にとって唯一無二であると証明しよう

未来は僕らの手のなか

さあ、時は満ちた「Be the change」